



# 實相寺 花園會報

平成二十五年  
三月一日発行  
発行所 臨濟宗妙心寺派  
陽明山 實相寺  
實相寺花園會  
〒761-0450  
高松市三谷町  
1811番地1  
TEL087-889-3838  
編集発行人  
山本文匡  
<http://www.jissouji.net>

第52号

## 草くさの戸とも 住替すまる代よぞ ひないの家え

松尾芭蕉

この句は『奥の細道』の序文に紹介されている句で、四十六歳の芭蕉が奥の細道の旅に出掛けるに際し、住んでいた深川の家を人に譲った時に詠んだ句です。

それまで芭蕉庵は随分とひなびた草庵だったので、今度は妻子孫を持つ人が住むので、ひな人形を飾るようになるだろうというのです。老年の芭蕉が長旅に出掛ける訳ですから、無事に戻れる保障はありません。世の移ろい行く寂しさと共に、刷新の華やかさを感じる句です。

## お気楽プチカルチャー

2月23日(土)「お香を作る会」を催したところ、女性中心に十五名のご参加がありました。「お気楽プチカルチャー」は寺庭さんの発案で、今後も不定期ながら様々な教室を開催予定です。



## 東日本大震災三回忌法要



早いもので東日本大震災からはや丸二年を迎えようとしています。

實相寺では住職の都合で、三月十日午前十時より三回忌法要を執り行い、十一日午後二時四十六分に鎮魂の鐘を撞きます。どちらでも自由にご参加頂けますので、宜しくお願い致します。

### ご本尊への回向

回向とは、「向いつへ回す」という意味で、お経をお唱えした時は必ず「回向文」をお唱えするのが正式です。

インド仏教本来の教えから言えば全ての行為は「自業自得」であり、善行であれ悪行であれ、その結果は自分自身が被ります。例えば、どんなに親が勉強しても子供の成績は上がらないのと一緒です。勿論、因縁というのは複雑に絡み合っ

ていますから、現実社会は一見すると単純な「善因善果」「悪因悪果」とはならないように思えます。

しかしながら、やはり巡り巡って自分の行為の果報は、自分自身が受けるというのが仏教の考え方であり、「情けは人の

為ならず」などと言う諺は、まさに仏教的です。

ところが「回向」はそうした考え方と異なります。善行によって自分が積んだ徳を、他人に回らせる行為が「回向」です。回向の由来を詳しく調べていないので正確なことは言えませんが、『大蔵経』で見ても「阿含部」等、初期仏教経典には見られない考え方なので、大乘仏教以降の考え方も知れません。

前置きが長くなりましたが、臨済宗では『般若心経』と『消災呪』は専らご本尊など仏様にお唱えするお経であり、それらをお唱えした後は「本尊回向」という「回向文」を読み上げます。今回は本尊略回向の読み下し文をご紹介します。

### 本尊略回向

仰ぎ惟れば三宝、咸く証知を賜りたまえ。

上來、般若心経、消災妙吉祥神呪を

誦誦す。集むる所の功德は、本師釈迦牟尼仏（その他本尊名）真如實際に回向し、

無上の仏果菩提を莊嚴し奉る。上は四恩に報い、下は三有を資け、法界の群生は

同じく種智を円かにせんことを。

十方三世一切の諸仏、諸尊菩薩摩訶薩、

摩訶般若波羅蜜。

### 本尊略回向大意

（仏法僧の）三宝（つまり仏教の教え）を仰ぎておもうに、（その教えを）みなことごとく、ハッキリと知らしたまえ。

これまで般若心経、消災呪を読んで来ま

したが、その功德はお釈迦さま（その他）の真実究極のさとりに回らし、この上無き仏の智慧を蔽かにお飾り致します。

上は父母・衆生・国王・三宝の四つのご恩に報いることができ、下は欲界・色界・無色界という三つの世界に生きとし生ける全てのものを助けて、全宇宙のあらゆる生きものが、皆等しく持っている仏の智慧の種が円かに開けますように。

十方（東西南北、東南・東北・西南・西北・上下）三世（過去現在未来）一切の仏、菩薩、偉大なる衆生、大いなる仏の智慧よ。

要は「般若心経」と「消災呪」をお唱えした功德を本尊様に捧げるので、私も様々な恩に報い、全ての生き物を救い、皆が悟れますように、という願いです。